

## はじめに

ここに、岩手県環境保健研究センター所報第1号を発行することができましたことは、私によるこびととするところであります。

岩手県では、これまでの衛生研究所と公害センターとを再編統合し、新たな環境保健行政推進の科学的・技術的中核となる試験研究機関として、平成13年度から、環境保健研究センター(Research Institute for Environmental Sciences and Public Health of Iwate Prefecture, I-RIEP)を発足させたところであります。その統合再編の理念については、私は次のように解釈しております。

人類は21世紀、種々の化学物質による自然環境の汚染や、人為源二酸化炭素をはじめとする温室効果気体の放出とその大気中濃度の増大による地球温暖化が進みつつある時代にあります。そのような時代には、従来の保健分野と環境分野とが分離された考え方は通用せず、これら分野の業務の融合、分野を超えた連携が不可欠であります。例えば、これまで熱帯域だけの感染症とみなされていたマラリアやデング熱なども、地球温暖化時代には中高緯度に及ぶ可能性があります。新しく近年問題になっているウェストナイル熱も、航空機による世界的侵入が対策を迫られております。このように、岩手県内部での感染症の発症も、また、この地方特有の、ヤマセ現象などを含む岩手の自然環境の変動・変化も、「地域の問題、地域の現象」として切り離して考えることはできず、地球的な、広域的なもの地域への表われという視点から捉えなければならない課題であります。

新しく発足した当研究センターは、企画情報部、保健科学部、衛生科学部、環境科学部、および地球科学部の5部から成っております。衛生研究所および公害センターから引き継いだ業務のほか、例えば県民の健康水準向上のための研究、また、地球的広域的な視点から岩手の地域環境を理解しつつ、希少野生動植物を有する優れた岩手の自然環境を保全する研究、地球環境問題に関わる環境政策の研究なども新たに加え、新しい分野の研究者も一部導入して試験研究業務を開始しております。

環境分野・保健分野は内容的に互いに密接に関連させ、センター内部の連携協力はもちろん、国内国外の大学、独立行政法人などを含む諸機関とも、種々連携や共同研究を進めつつあるところであります。すでに国際的な最先端の研究成果も幾つか出ております。

地方自治体の公設試験研究機関のあるべき姿として、県民のニーズに直結する地域課題に取り組むことはもちろんですが、県民の精神的勇気付けに役立つような世界的な研究にも発展できればと考えております。

平成15年3月

岩手県環境保健研究センター

所長 鳥羽良明